

アシグロハモグリバエ (*Liriomyza huidobrensis* (Blanchard)) の見分け方

2001年9月、北海道において、ハウレンソウや花き類に高密度で寄生するハモグリバエが認められ、精査した結果、これまで国内で発生が無かったアシグロハモグリバエ *Liriomyza huidobrensis* (Blanchard) であることが判明した。その後、2003年5月に山口県のハウス栽培キュウリでも発生が確認され、同年6月23日に両道県の病害虫防除所から発生予察情報の特殊報が発表された。今後、国内の他の地域でも本種が発生する可能性があることから、本種の形態的特徴を中心に、同属の他種との識別



図1 アシグロハモグリバエ成虫

点等を紹介する。なお、従来、本種の和名として、植物防疫所はレタスハモグリバエを用いてきたが、これまで国内でレタスでの寄生が認められていないこと、本種が14科以上の植物を加害すること及び本種の形態的特徴に鑑み、アシグロハモグリバエと呼称することとされた。また、本種の識別点については、以前、本誌56号でも紹介されており、近縁のマメハモグリバエ (37号)、トマトハモグリバエ (60号) も本誌で紹介されているので参照されたい。

学名: *Liriomyza huidobrensis* (Blanchard, 1926)

和名: アシグロハモグリバエ

(旧名: レタスハモグリバエ)

英名: South American leaf-miner,

Pea leaf-miner

形態: 成虫の体長は約2 mm。翅長は1.6 (♂) ~ 2.5 (♀) mmで、大きさはナスハモグリバエと同程度でマメハモグリバエ、トマトハモグリバエよりやや大きい。体色は黒色で頭胸部の一部は黄色である (図1)。体色は基本的には上記3種と共通するが、胸部側面の中胸側板が

より広く黒色を帯び、脚が目立って黒ずむ (図2、3)。ここでは日本国内で野菜・花き類で発生が確認されている本種を含む *Liriomyza* 属6種の外部形態と寄主植物に基づく検索表を示した (岩崎暁生氏作成資料を改変)。この検索表



図2 アシグロハモグリバエ成虫側面



図3 トマトハモグリバエ成虫側面

は典型的な個体に基づいているので、判断に迷う場合は最寄りの植物防疫所に同定依頼願いたい。正確な同定を行う場合は、雄交尾器、特に挿入器先端部の形状観察が必要である。

生態: 本種はマメハモグリバエ、ナスハモグリバエ、トマトハモグリバエと同様に多くの植物

を加害する。Spencer (1990) は14科を上げているが (本誌56号参照)、寄主範囲はより広いものと思われる。北海道では特にトマト、キュウリ、セロリー、アスター、ハウレンソウ、カスミソウ、サボナリアで、山口県ではハウス内のキュウリで激しい加害が認められた (図4)。本種の卵、幼虫、蛹及び卵から羽化までの発育零点はそれぞれ7.2, 7.4, 7.7, 7.5℃、有効積算温度はそれぞれ40.8, 98.6, 140.5, 279.9日度との報告がある (Luo et al., 2002)。

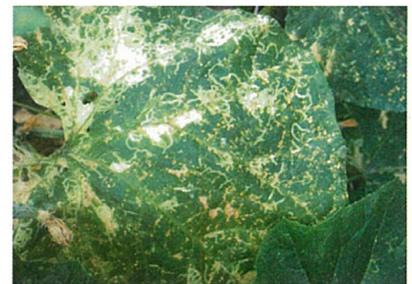


図4 キュウリ食害痕

防除: マメハモグリバエ、トマトハモグリバエと同様、有効農薬の散布、ハウス内への侵入防止、天敵の利用などが有効と考えられる。

末筆ながら本稿作成に協力いただいた北海道病害虫防除所 岩崎暁生氏に感謝申し上げる。

野菜・花き類を加害する日本産 *Liriomyza* 属 6 種の検索表

1	成虫頭部の外頭頂剛毛は黒色部に生じる (図5)	2
	成虫頭部の外頭頂剛毛は黄色部に生じる (図6)	7
2	成虫頭部の側額(複眼の内縁)の上部には黒色帯がある (図7)	3
	成虫頭部の側額の上部には黒色帯がなく、額と同じ黄色部のみ (図8)	5
3	幼虫・蛹の後気門は6個以上の小孔を持つ (図9)	アシグロハモグリバエ (暗色型)
	幼虫・蛹の後気門は3個の小孔を持つ (図10)	4
4	幼虫はアブラナ科を含む多くの植物に寄生する。	トマトハモグリバエ (暗色型)
	幼虫はアブラナ科のみに寄生する。	アブラナハモグリバエ (<i>L.brassicae</i>)
5	幼虫・蛹の後気門は6個以上の小孔を持つ (図9)、成虫の中胸側板、脚は概ね黒色 (図2)	アシグロハモグリバエ
	幼虫・蛹の後気門は3個の小孔を持つ (図10)、成虫の中胸側板、脚は概ね黄色 (図3)	6
6	幼虫はキク科に寄生することもあるが、渦巻状のせん孔は残さず不規則である (図11)	トマトハモグリバエ
	幼虫はキク科シオン族 (<i>Aster</i> 属、 <i>Solidago</i> 属、 <i>Bellis</i> 属) のみに寄生し、渦巻状のせん孔を残す (図12)	ヨメナスジハモグリバエ (<i>L.asterivola</i>)
7	幼虫・蛹の後気門は6個以上の小孔を持つ (図9)	ナスハモグリバエ
	幼虫・蛹の後気門は3個の小孔を持つ (図10)	マメハモグリバエ



図5

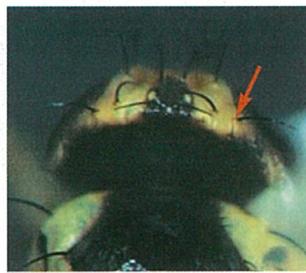


図6

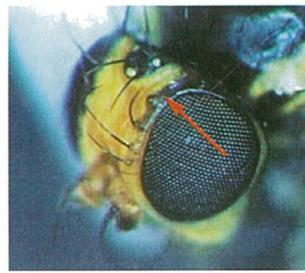


図7

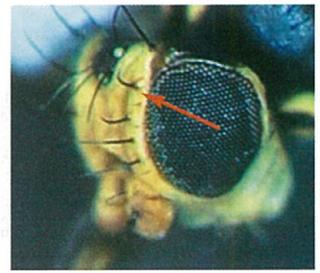


図8



図9



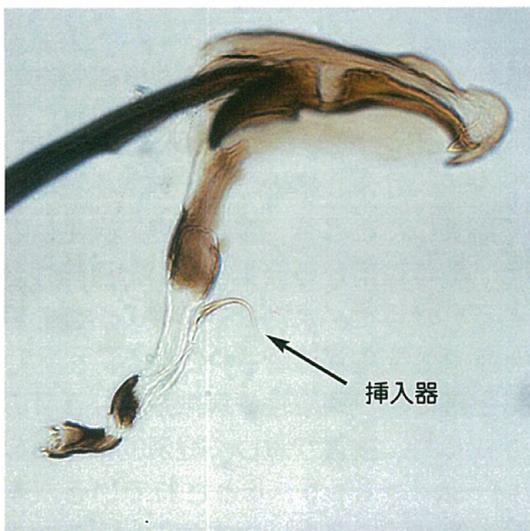
図10



図11



図12



アシグロハモグリバエ雄交尾器
(epandrium を除いた状態)



(アシグロ)



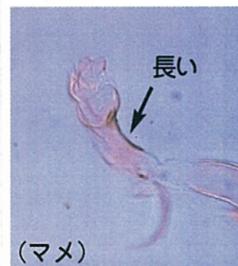
(トマト)



(アブラナ)



(ナス)



(マメ)



(ヨメナスジ)

Liriomyza 属 6 種雄挿入器先端部の形状